

# 道路建設事業の再評価項目調書

事業名	一般国道2号 <small>しものせき</small> 下関拡幅	事業主体	中国地方整備局										
所在地	山口県下関市一の宮 <small>しものせき いちのみや</small> ~ 下関市棕野 <small>しものせき むくの</small>												
事業概要	<p>一般国道2号は、大阪市を起点とし、瀬戸内海沿岸の諸都市を連絡し、北九州市に至る延長約680kmの主要幹線道路である。</p> <p>下関拡幅は、下関市一の宮地区及び棕野地区における交通混雑の緩和及び交通安全の確保を目的として計画された延長2.7kmの道路である。</p>												
事業着手	昭和50年度												
総事業費	約190億円	既投資額	平成14年度末まで 約131億円(進捗率69%)										
再評価の視点	<p>事業の必要性に関する視点</p> <p>ア)事業をめぐる社会情勢等の変化 沿道への複数の流通関連施設の立地などによる交通量の増大により、慢性的な交通混雑が生じている。 S46.6月 下関商業団地 完成 S52.7月 下関中央卸売市場 完成 S63.3月 新下関卸団地 完成</p> <p>イ)費用便益分析</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">道路事業に要する費用</th> <th style="width: 50%;">道路整備による効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>                     ・総費用                      評価対象期間内                      = 整備期間 + 40年                      ( 総事業費 190億円                      部分供用に要した事業費 131億円                      残区間整備に必要な事業費 59億円                      現在価値換算事業費 46億円 )                 </td> <td>                     走行時間                      短縮便益 192億円                      走行経費                      減少便益 14億円                      交通事故                      減少便益 9億円                      ・総便益                      + + = 215億円(B)                 </td> </tr> <tr> <td>                     事業費 46億円                      維持管理費 11億円                      総費用 + = 57億円(C)                 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>費用便益分析の結果</td> <td>B / C = 3.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">                     「費用便益分析マニュアル(案)による」                      (H10.6.26 付け建設省道経発第14号通達)                 </td> </tr> </tbody> </table>			道路事業に要する費用	道路整備による効果	・総費用 評価対象期間内 = 整備期間 + 40年 ( 総事業費 190億円 部分供用に要した事業費 131億円 残区間整備に必要な事業費 59億円 現在価値換算事業費 46億円 )	走行時間 短縮便益 192億円 走行経費 減少便益 14億円 交通事故 減少便益 9億円 ・総便益 + + = 215億円(B)	事業費 46億円 維持管理費 11億円 総費用 + = 57億円(C)		費用便益分析の結果	B / C = 3.7	「費用便益分析マニュアル(案)による」 (H10.6.26 付け建設省道経発第14号通達)	
道路事業に要する費用	道路整備による効果												
・総費用 評価対象期間内 = 整備期間 + 40年 ( 総事業費 190億円 部分供用に要した事業費 131億円 残区間整備に必要な事業費 59億円 現在価値換算事業費 46億円 )	走行時間 短縮便益 192億円 走行経費 減少便益 14億円 交通事故 減少便益 9億円 ・総便益 + + = 215億円(B)												
事業費 46億円 維持管理費 11億円 総費用 + = 57億円(C)													
費用便益分析の結果	B / C = 3.7												
「費用便益分析マニュアル(案)による」 (H10.6.26 付け建設省道経発第14号通達)													

事業名	一般国道2号 <small>しものせき</small> 下関拡幅	事業主体	中国地方整備局														
再評価の必要 性に関する視 点	<p>ウ)事業の効果  物流効率化の支援・・・特定重要港湾下関港へのアクセスが改善  中心市街地の活性化・・・中心市街地へ至る現道の混雑度の改善  都市圏の交通円滑化の推進・・・主要渋滞ポイントの渋滞が緩和</p> <p>エ)事業の進捗状況</p> <p>1. 主な経緯</p> <table border="0"> <tr> <td>昭和50年3月</td> <td>都市計画決定</td> </tr> <tr> <td>昭和50年度</td> <td>事業着手</td> </tr> <tr> <td>昭和51年度</td> <td>用地買収着手</td> </tr> <tr> <td>昭和59年度</td> <td>工事着手</td> </tr> <tr> <td>平成4年度</td> <td>山の谷交差点～棕野交差点間供用 L = 800m (平面部4 / 4車線)</td> </tr> <tr> <td>平成10年度</td> <td>事業再評価</td> </tr> <tr> <td>平成15年5月</td> <td>棕野交差点立体化供用</td> </tr> </table> <p>2. 事業の進捗状況</p> <p>工事の進捗状況</p> <p>再評価時の工事進捗率は、約45%であったが、段階的な整備を図り、平成15年5月までに棕野交差点の立体化を行ったところである。  また、平成14年度末までの進捗率は約57%である。</p> <p>用地補償の状況</p> <p>再評価時の用地進捗率は、約96%であったが、用地買収を促進し、平成13年度までに用地買収を完了したところである。</p>			昭和50年3月	都市計画決定	昭和50年度	事業着手	昭和51年度	用地買収着手	昭和59年度	工事着手	平成4年度	山の谷交差点～棕野交差点間供用 L = 800m (平面部4 / 4車線)	平成10年度	事業再評価	平成15年5月	棕野交差点立体化供用
昭和50年3月	都市計画決定																
昭和50年度	事業着手																
昭和51年度	用地買収着手																
昭和59年度	工事着手																
平成4年度	山の谷交差点～棕野交差点間供用 L = 800m (平面部4 / 4車線)																
平成10年度	事業再評価																
平成15年5月	棕野交差点立体化供用																

事業名		一般国道2号 <small>しものせき</small> 下関拡幅	事業主体	中国地方整備局
再評価の視点	事業進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地の進捗見込み 平成13年度までに用地買収を完了している。</li> <li>・工事の進捗見込み 現在、山の谷交差点立体化に向けた関係機関協議を行っているところであり、平成16年度より工事に着手する予定である。</li> </ul>		
	コスト縮減や代替案の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC床版の採用など新技術の積極的な活用により工期短縮が図られ、供用効果の早期出現を促進した。</li> <li>・建設副産物の発生抑制（建設残土の現場内流用）や再生材（再生骨材等）利用等によりコスト縮減に努めている。</li> <li>・また、 、 の観点による再評価から、代替案を検討する必要がないと考えている。</li> </ul>		
今後の対応方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続 平成18年度の山の谷交差点の立体化を目指し事業を推進する。</li> </ul>		

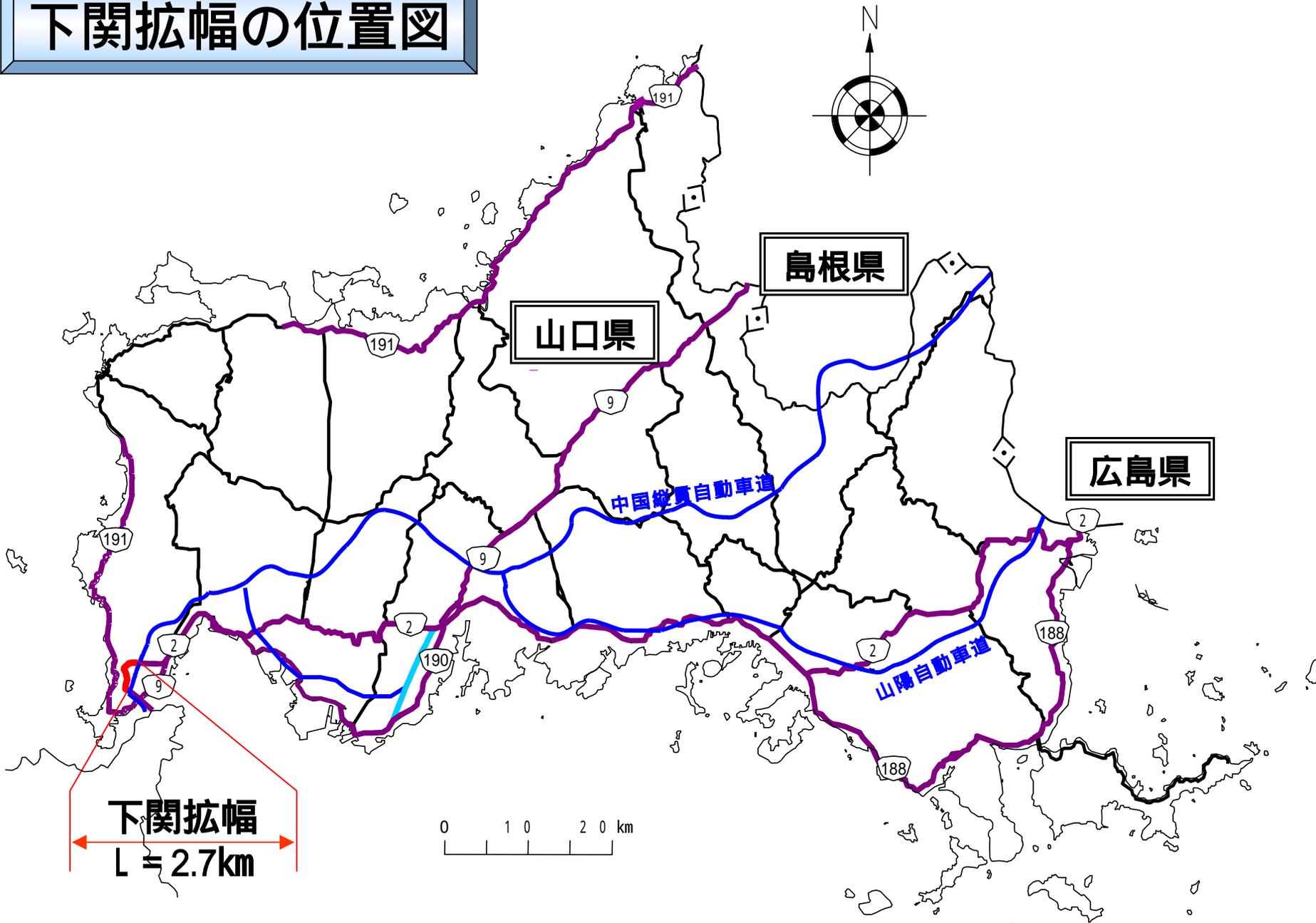
しものせきかくふく  
一般国道2号 下関拡幅

事業再評価

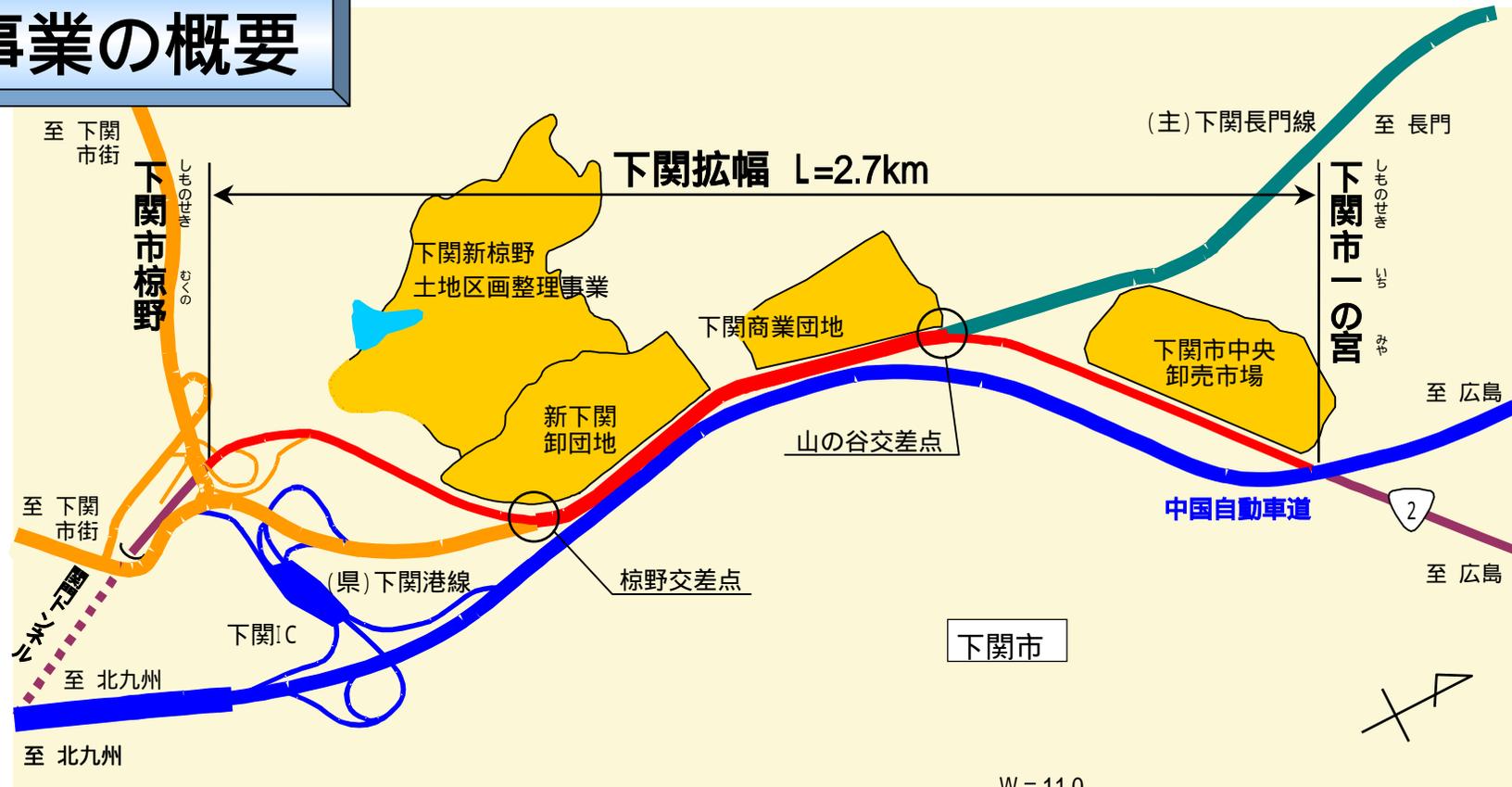
平成15年11月

国土交通省 中国地方整備局

# 下関拡幅の位置図



# 事業の概要

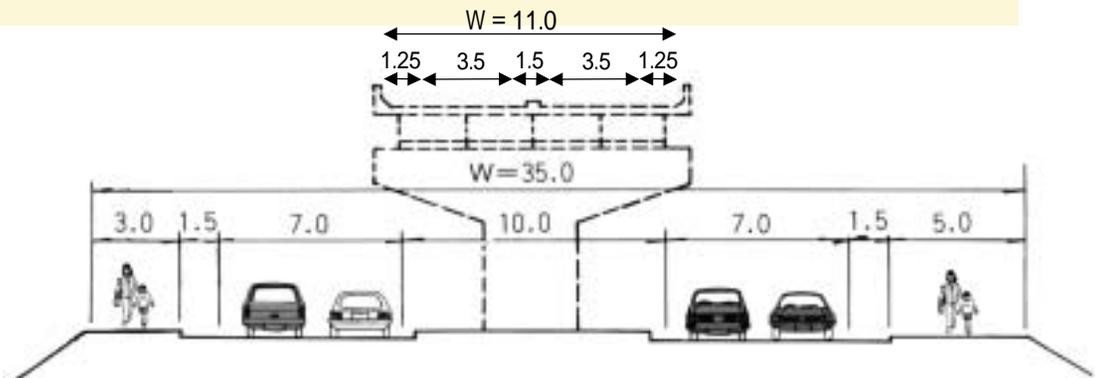


## 起終点

(自) 下関市一の宮

(至) 下関市棕野

- ・ 計画延長:  $L = 2.7 \text{ km}$
- ・ 幅員:  $35 \text{ m}$
- ・ 道路区分: 第3種1級
- ・ 設計速度:  $V = 80 \text{ km}$



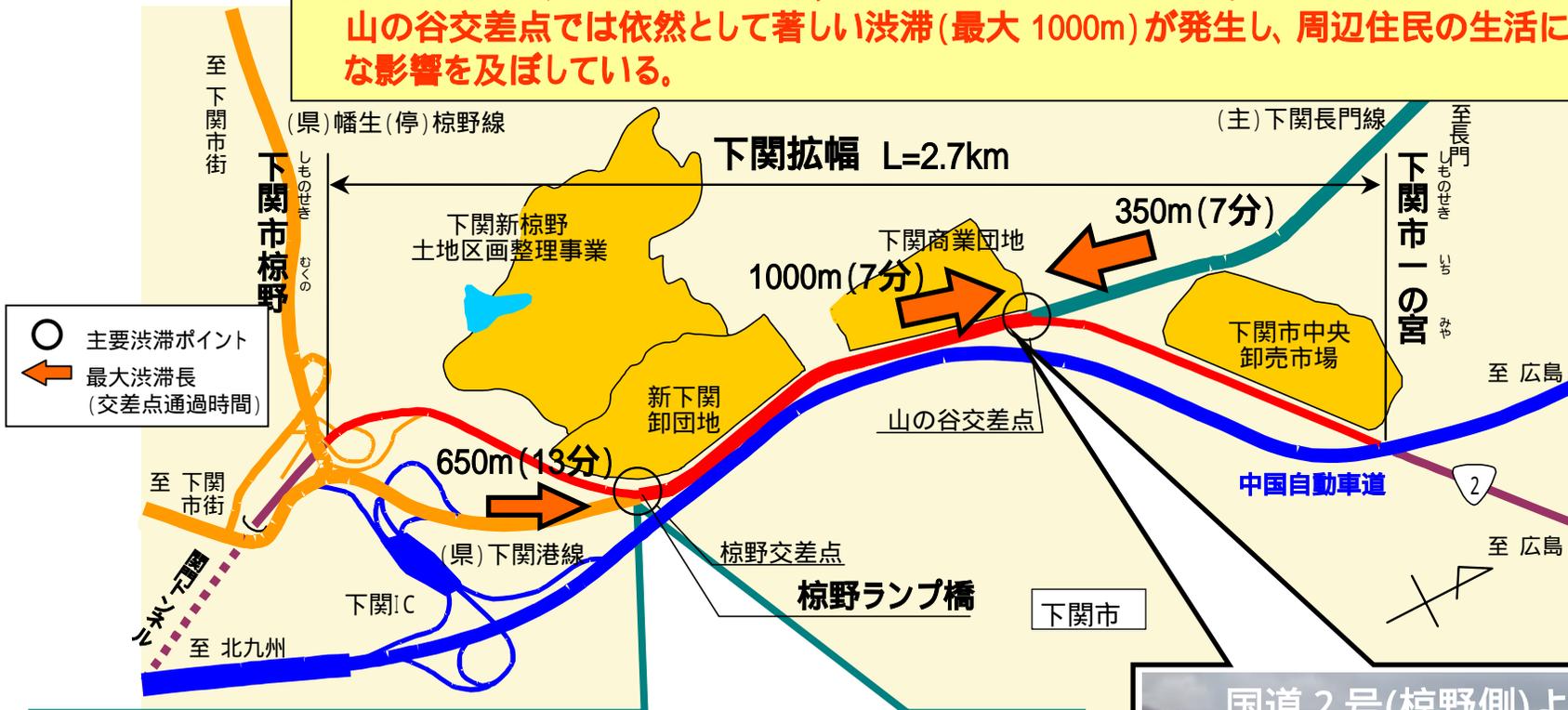
## 標準断面図

(平面構造: 4車線 高架構造: 2車線)



# 渋滞状況

棕野交差点では、棕野ランプ橋により、国道2号(下り:北九州方向)の渋滞(最大渋滞 500m)が解消。ただし上り方向で関門トンネル 広島方向の交通と、下関港線 下関長門線方向の交通が交錯し、処理能力の低下、安全性の低下を招いている。  
山の谷交差点では依然として著しい渋滞(最大 1000m)が発生し、周辺住民の生活にも多大な影響を及ぼしている。



関門トンネルからの交通と下関港線からの交通が交錯している。

# 整備効果

## 連絡時間の短縮

下関IC ~ 下関港(長府地区)間で  
**最大約17分**(31分 - 14分)短縮

### < 供用前 >



### < 供用後 >



## 地域産業の活性化を支援

沿線に立地する卸売市場、商業団地、  
 運送会社等の機能向上を支援

